

第3学年1組 社会科学学習指導案

1 単元名 単元2「働く人とわたしたちの暮らし」 小単元(1)「店で働く人と仕事」

2 指導観

- 本学級の子どもは、3年生で新しく始まった社会科学学習に興味をもち、楽しく取り組んでいる。これまでに校区・戸畑区・北九州市の土地の様子や土地の使われ方、交通の様子などを学習してきた。校区探検や市内の社会科見学で見つけたことや感じたことを班で話し合いながらホワイトボードにまとめる活動を通して、少しずつではあるが、調べて分かったことや考えたことを短い言葉や箇条書きで表現することができるようになってきている。また、地域の様子には場所によって違いがあることを理解し、自分たちの住むまちのよさに気付くことができた。しかし、考えを比較したり関連づけたりして学習を深めることは十分にできているとは言えない。そこで、本小単元では、子どもに身近な販売を取り上げて情報収集を行い、その情報を基に、自分の考えを加えて情報を整理したり、情報を伝達したりするなどの「対話」をしながら学習問題の解決を図ることができるようにしていきたい。

本学級の子どもは、地域にあるスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで買い物をした経験がある。日常的にそれらの店を利用しているが、販売の仕事をする人々の働きによって、自分たちがいつでも必要な物を買うことができていることには気付いていない。また、家の人が買い物をする際に、様々な思いやこだわりをもって店を選んでいることや、店の人がお客さんを増やすために、ニーズに応えるための様々な工夫や努力をしていることに気付いている子どもは少ない。さらに、商品がどのような経路で運ばれているかなど、他地域とのつながりについての関心は高いとは言えない。そのため、子どもの経験を生かしながら、買い物調べなどの調べる活動や見学・インタビューなどの活動を取り入れることによって、消費者の考え方、あるいは消費者のニーズに応える販売者側の工夫や努力、思いや願いとの関連に迫っていきたい。

- 本小単元は、学習指導要領第3・4学年の内容(2)に基づいて設定されている。地域の人々の販売について、地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること、地域の人々の販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域や外国との関わりを見学や調査をして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにすることをねらいとしている。

事例として、校区内にあるスーパーマーケットのスピナを取り上げる。スピナは、子どもたちには身近であり見学がしやすいため、追究意欲が持続すると考える。よって、見学やインタビューなどの具体的な活動を通して、販売側は消費側の信頼を損なうことなく、売り上げを高めるために品質や価格などの工夫をしていることについて考えることができる。スーパーマーケットの特色の一つは、品揃えが豊富で多くの商品の中から消費者が欲しいものを選択して購入することができるという点である。販売側の立場からすると、常に消費者が必要な量の品揃えをしたり、売れ行きや残量を見て売り方を変えたりする工夫をしている。また、ポイントカードやセルフディスカウントクーポン、プライベートブランドなど、様々なサービスの工夫を行いながら集客のための努力をしている。このような販売の工夫を調べることにより、販売の仕事の工夫と自分たちの生活との関わりに気づき、地域には販売の仕事があり、自分たちの生活を支えていることをとらえることができると考える。

- 指導に当たっては、以下の手立てを講じる。

① 問いの焦点化の工夫

子どもたちは、家の人がスーパーマーケットで買い物をする理由は、安さと品揃えの多さだと考えている。また、スーパーマーケットでは、お客さんが買い物をしやすいようにするために、売り場や安全管理など様々な工夫や努力をしていることを、見学を通してとらえることができる。しかし、多くの子どもは、販売側と消費側を関連づけ、スーパーマーケットが消費者のニーズと店の利益を意識して工夫や努力をしているとはとらえていない。そのため、店（販売側）とお客さん（消費側）の視点から、店が行っている手段（工夫や努力）とその目的（多くの消費者に買

ってもらい利益を上げる)をつなぐ必要がある。そこで、本時ではスーパーマーケットの特色の一つである「品揃え」を取り上げ、子どもたちが気付いていない「売れ残り」の事実を知らせて、その驚きや疑問から「売れ残ると分かっているのに、なぜ商品をたくさんそろえているのか」という問いの焦点化を図るようにする。商品が多い場合と少ない場合とでは、誰にどんな状況が起こりえるかを考えさせ、豊富な品揃えの理由について考えを交流するようにする。

② 思考を深める話し合い活動の工夫

スーパーマーケットの見学を2回行い、働いている人にインタビューをするなどの学習を位置付けることで、学習問題の解決に迫る手立てとする。また、自分の調べたことを紹介し合い、話し合うことを通して、消費者の願いに応えた店の人の工夫や努力について考えるようにする。

本時では、子どもが気付いていない「売れ残り」について焦点を当てる。スピナのある月の売れ残り量の表と金額を資料として提示し、さらに店長さんの話として、「毎日、売れ残りが出て仕方がないと思って、商品をたくさん出している。」という事実を知らせる。子どもは、売れ残りが出ることは店にとってよくないと思っているため、この言葉に驚き、疑問を感じると思われる。そこから、商品が多い場合と少ない場合ではどのようなことが起こりそうかを考えて付箋に書き、グループで交流し、全体に広げることで販売側の努力を考えることができるようにする。

③ 学習評価の工夫

評価規準を基に、毎時間のねらいを具体的な子どもの姿として明確にして、ノートの記事や発言などを見取る。本時では、「売れ残り」は、店にとってよくない状況だというマイナスのイメージが予想される。しかし、商品が多い場合と少ない場合を比較することによって、多いと集客が見込めるので店のためにはプラスになるのではないかと、考えの変容を引き出し本時のねらいに迫っていくようにする。

3 小単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	○ 地域の人々の販売の仕事の様子に関心をもち、それを意欲的に調べ、地域の販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとする。
社会的な 思考・判断・表現	○ 地域の人々の販売の仕事の様子から学習問題や予想、学習計画を考え表現することができる。 ○ 地域の人々の販売の仕事をもとに自分たちの生活と関連づけて考え適切に表現することができる。
観察・資料活用 の技能	○ 地域の人々の販売の様子を的確に見学・調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりすることができる。
社会的事象について の知識・理解	○ 地域の販売の仕事に関わっている人々の工夫を理解する。 ○ 地域の人々の販売に関わる仕事を通して、自分たちの地域は国内の他地域と関わっていることを理解する。

4 指導計画（総時数 14 時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
つかむ	1 買い物に行った経験などを話し合い、買い物調べの計画を立てる。①	○ 地図や写真を見せ、自分の家ではどこでどんな買い物をしているのかなどの経験を話し合わせるとともに、家の人たちがどんな店を選んで買い物をしているのかについて調べる意欲を高める。 ○ 買い物調べを行うに当たっては、個人のプライバシーに配慮する。	【関】自分の家の買い物の様子に関心をもち、意欲的に買い物調べをしようとしている。 (発言、ノート)

つかむ	2 買い物調べの結果を地図やグラフにまとめる。①	○ 買い物調べの結果を地図やグラフにまとめ、家の人たちが行った店の種類や回数、場所などをとらえることができるようにし、家の人たちは店を選んで買い物をしていることに気付かせる。 ○ 地域には多くの商店があることを確かめ、それぞれの店のよさを考えるようにする。	【技】買い物調べの結果を地図やグラフにまとめたものを読み取っている。 (発言、ワークシート、ノート)
	3 買い物調べの結果を基にして、スーパーマーケットを利用するよさについて話し合い、学習問題をつくる。① (学習問題) 店で働く人たちは、どのような工夫をして、仕事をしているのだろう。	○ 買い物調べの結果から、スーパーマーケットでの買い物の多さに気付かせ、その理由を予想し学習問題に導くようにする。 ・値段が安いから ・品物が豊富だから ・駐車場があるから ・宣伝しているから など	【思】たくさんの人がスーパーマーケットを利用する理由を予想し、学習問題を考え、表現している。 (発言、ノート)
調べ、考え、表現する	1 スーパーマーケットを見学する計画を立てる。①	○ 予想から「値段」「品揃え」「新鮮さ」「便利さ」の視点に整理し、調べることや調べ方を話し合い、見通しをもつようにする。 ○ 客や店の人に迷惑にならないように、見学のマナーやインタビューの仕方を十分に指導しておく。	【思】見学に関心をもつとともに、自分の調べたいことを明確にし、見学計画を考え、表現している。 (発言、ワークシート、ノート)
	2 スーパーマーケットを見学する。①	○ 店内の様子を観察し、分からないところは店の人やお客さんにインタビューして調べるようにする。 ○ 見学して分かった店の工夫をメモすることで、必要な情報を集めることができるようにする。	【技】観察したりインタビューをしたりして、スーパーマーケットの販売の工夫や、客がスーパーマーケットを利用する理由を調べている。(行動観察、メモ)
	3 見学して分かったことをカードにまとめ、販売の工夫を考える。② <本時2／2>	○ 見つけた事実を写真や絵、文でカードにまとめる。 ○ 調べてきたことを「値段」、「品揃え」、「新鮮さ」、「便利さ」に整理することを通して、販売の工夫について考える。 ○ 売れ残りの事実から、なぜ商品をたくさん出しているのか、について話し合い、店の利益を意識した工夫について考える。	【技】調べて分かったことや考えたことを分かりやすくまとめている。(カード) 【思】スーパーマーケットは店の利益を意識しながら、工夫や努力をしていることを考え、表現している。 (発言、ノート)

調べ、考え、表現する	4 不思議に思ったことや、もっと詳しく調べたいことなどから、2度目の見学計画を立てる。 ①	○ 不思議に思ったことや、もっと調べたいことなど人に焦点を当てて具体的に調べる課題を作り、見学の視点を明確にできるようにする。 ・商品を並べる人 ・レジ係の人 ・食品管理の人 ・総菜を作る人 ・肉や魚を切る人 ・仕入れの仕事をする人 など	【思】自分の調べたい課題をもち、見学計画を考え、表現している。 (発言、ワークシート、ノート)
	5 店員さんから直接話を聞いて、販売の工夫を調べる。(見学) ①	○ 店員さんの仕事の様子に着目し、どんなことに気をつけているか、店員さんの仕事の様子についてグループごとに調べる。	【思】様々な販売の工夫の意味や、工夫に込められた思いについて考え、表現している。 (行動、メモ)
	6 見つけた工夫を出し合いスーパーマーケットの人気の秘密について話し合う。 ①	○ 店内や働く人の工夫などから様々な販売の工夫をしていることを確認し、人気の秘密を考えるようにする。	【思】客のニーズに応じた販売の工夫について考え、表現している。 (発言、ノート)
	7 売られている商品は、どこから仕入れているのか、他地域とのつながりを考える。 ①	○ 商品の仕入れ先を地図にまとめるなどして、店の品物が身近な地域だけでなく、国外からも仕入れていることに気付くようにする。	【知】商品の仕入れ先から見られる他地域との関わりを理解している。 (発言、ノート)
	8 家の人たちが買い物をするときに気をつけていることや、これからどんなことに気をつけて買い物をすればよいか話し合う。 ①	○ 家の人たちがどんなことに気をつけて買い物をしていたか振り返り、自分たちが上手な買い物をするにはどうすればよいかについて話し合うようにする。	【関】今までの自分の買い物の仕方を振り返り、これからの買い物の仕方を考えようとしている。 (発言、ノート)
まとめる・深める	1 スーパーマーケットの工夫と消費者の願いを関連付けて考え、学習問題の答えについて話し合う。 ①	○ お客様の願いを基に、これまで見つけた店の工夫の意味について考えるようにする。	【思】消費者の願いと店の工夫を関連付けて考え、適切に表現している。 (発言、ノート)
	2 様々な店での買い物の仕方について話し合う。 ①	○ スーパーマーケットの他にも様々な店があり、それぞれの店のよさを話し合うことで、自分たちの生活が支えられていることを考えるようにする。	【知】地域には販売の仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。 (発言、ノート)

5 本時の学習（7時間目/全14時間）

於 3年1組 教室

- (1) 主眼 商品の売れ残りの事実を知り、なぜ売れ残りが出るのに品揃えをよくしているのかについて話し合う活動を通して、スーパーマーケット（販売側）の集客のための工夫や努力を考えることができるようにする。
- (2) 準備 売れ残り表と金額、写真、店長のお話のビデオ、付箋
- (3) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準（評価方法）
1 資料を提示して、本時の学習のめあてをつくる。  こんなに売れ残っているの！売れ残ると分かっているのにどうして？ （めあて） 売れ残ることが分かっているのに、なぜたくさんの商品を出しているのだろう。	○ ある月の売れ残り量の表と金額を提示するとともに、店長さんの話から、毎日、必ず売れ残りが出るという事実を知らせ、疑問を引き出すことで問いの焦点化を図り、めあてへと導く。
2 商品が多い場合と少ない場合について起こりうる状況について話し合う。 (1) 自分の考えを書く。 (2) 考えたことをグループで話し合う。 (3) 全体で話し合う。	○ これまで調べてきたスーパーマーケットの「品揃え」の事実を基に、商品が多い場合と少ない場合について起こりうる状況について、自分の考えを付箋に書くようにする。 ○ 自分の考えを記述することが難しい場合、スーパーマーケットの写真を示し、見学時の様子を想起できるようにするとともに、「商品が多いとどんなよいことがあるか書こう」と助言する。 ◎ それぞれの考えを持ち寄り、「だから」を使って説明したり、理由付けたりして考えを整理しながら話し合いを行うようにする。 ○ 出された意見をまとめていき、たくさんの商品を出している目的について全体で考えを交流する。その際、「自分だったら商品が多い店と少ない店とではどちらに買い物に行くか」を問うようにし、自分の立場（消費者側）で考えるようにする。
売れ残ると分かっているのに、なぜ商品をたくさん出しているのだろう。 〈商品がたくさんある場合〉 ・たくさんあるとお客さんが買いたくなる ・たくさんあると好きな物を選べる ・ほしただけ買うことができる  〈商品が少ない場合〉 ・種類が少ないと買いたくなくなる ・欲しいものがないこともある ・一度にたくさん買うことができない	
3 店長さんの話（ビデオ）を基に、販売する立場での品揃えの工夫の意味を考える。	○ 店長さんの「商品が多いと、たくさんのお客さんが来店し、全体的な売り上げが上がる」という話を基に、「販売側」の立場から品揃えの工夫の理由をとらえることができるようにする。
4 本時の学習をまとめ、振り返りを書く。 （まとめ） お店は、たくさんの商品をそろえてお客さんを集める工夫をしながら、売り上げを高めている。	○ 学習のまとめについては、「売れ残るのにたくさんの商品を出すのは、つまりどういうことか」について自分の言葉で本時の学習のまとめを考えるようにする。 【思】スーパーマーケットは、店の利益を意識して、工夫や努力をしていることを考え、表現している。（発言、ノート） ○ 振り返りには、分かったことや感想・さらなる疑問を書くようにし、次の学習へとつなげるようにする。

